

カンピロバクター食中毒Q&A

このQ&Aは、「東京都食品安全情報評価委員会」が、近年のカンピロバクター食中毒の増加を受けて、この食中毒の低減を目指した検討を行った際にとりまとめたものです。皆さんに最もお伝えしたいことは、クイズ形式で紹介していますが、さらにいろいろ ...

www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/anzen/hyouka/campylo/report2a.html

まちBBS東北掲示板

東北板では、あらゆる学校スレッドは削除対象です（過去ログ検索システム presented by みみずん）「age」「～ゲット」「AA(アスキーアート)」は削除対象です書き込みはご遠慮願いますsage進行での迷惑行為を防ぐ為、sage機能をオフにしていますメ欄 ...

tohoku.machibbs.com/touhoku/

MLリソース:抗菌剤・抗生物質

MLリソース:抗菌剤・抗生物質.【日本語版コメント1218】2004年度世界抗菌薬市場規模は\$24 billion(Datamonitor社推計)。その中でもマクロライド系でクラリスロマイシンとアジスロマイシン(US\$1851million(-8%))は圧倒的1-2位の座にある。 ...

www.fukumi.co.jp/mm/add/1060_add.htm

J-WAVE WEBSITE : Make IT 21 Trading blog

81.3FM J-WAVEのオフィシャルwebsite。起業家、プロフェッショナルの生の声、人生、仕事の教訓とヒントが満載。夢を実現させたいアナタに送る「聴くビジネスマガジン」。バーチャル・マネーで株取引！番組アシスタント・青木さくらが実際の株価に連動した ...

www.j-wave.co.jp/blog/trading/archives/cat313/

ようこそ！たんぽぽママの庭へ。(旧:た...

ようこそ！たんぽぽママの庭へ。(旧:たんぽぽ◇ようちえん。)

plaza.rakuten.co.jp/ziromama

【付4】:「地域における新たな普及啓発の方法論」と本文「D.考察」項
の検討中参考資料

(1) 最近の動向と参考となる事柄

・Web2.0の考え方は、

- lightweight software
- lightweight business model

などの観点からも、今後の

「地域における新たな普及啓発方法」

に関するシステムの設計のあり方の参考となります。

・Google の歴史的変遷、基本コンセプトの流れ、その成功の秘訣なども、
今後の 「地域における新たな普及啓発方法の開発」に関するシステムの設計の
あり方の参考となります。

・BlogやSNSの流行は、ものごとの周知を基本としたWebだけではなく、経過や体
験の分かち合いを支援するBlog、専門家などによる情報の信頼性をたかめるSNSな
ど、「地域における新たな普及啓発方法」に関する緒活動を支援するという視点からも、
今後の「地域における新たな普及啓発方法の開発」に関するシステムの設計のあり方
の参考になると思われれます。

参考

【 What Is Web 2.0: Design Patterns and Business Models for the Next Generation of Software 】
by Tim O'Reilly 2005.9.30

<http://www.oreillynet.com/pub/a/oreilly/tim/news/2005/09/30/what-is-web-20.html>

Web 1.0		Web 2.0
DoubleClick	-->	Google AdSense
Ofoto	-->	Flickr
Akamai	-->	BitTorrent
mp3.com	-->	Napster
Britannica Online	-->	Wikipedia
personal websites	-->	blogging
evite	-->	upcoming.org and EVDB
domain name speculation	-->	search engine optimization
page views	-->	cost per click
screen scraping	-->	web services
publishing	-->	participation
content management systems	-->	wikis
directories (taxonomy)	-->	tagging ("folksonomy")
stickiness	-->	syndication

(2) 従来からのデザイン方法と新しいデザイン方法の基本コンセプト(案)

・「地域における新たな普及啓発方法」を開発していくためには、新たなデザイン方法が必要になってきます。

以下に、検討中のその試案を示します。

・従来からのITやインターネットなどに関連したデザイン方法の流れと、「地域における新たな普及啓発方法の開発」に関する新しいデザイン方法(案)の関係のイメージを

図4.1 新たな開発方法論(デザイン方法論)に向けて(案)

に、また、これまでの各デザイン方法の特質との関係を、とりまとめて、

図4.2 各デザイン方法の特質と新たなデザイン方法の基本コンセプト(案)に示します。

・「地域における新たな普及啓発方法の開発」に関する新しいデザイン方法、ここでは、ABCD方法と略称することになります。

(実世界の健康危機対応実体の)諸活動に基づいた(地域のノローカルな)新たな普及啓発をおこなう活動体(ここでは普及啓発コミュニティと仮称)、そのコミュニティ(を支援する)デザイン方法という意味での:

ABCD (Activity Based Community Design)

と、(実世界の健康危機対応実体の)諸活動に基づいて(地域のノローカルな普及啓発コミュニティを)社会構成主義(の考え方によって構築していくという)デザイン方法という意味での:

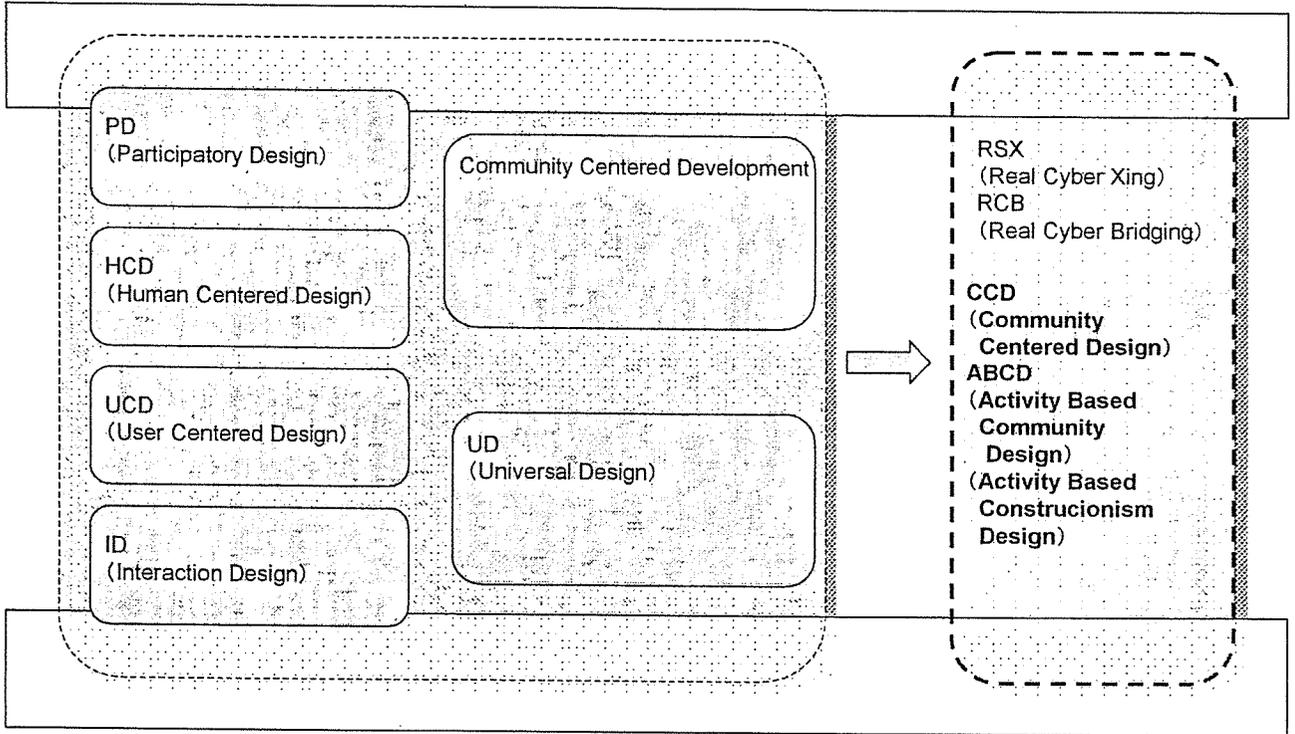
ABCD (Activity Based Constructionism Design)

の2つの意味を包含しています。

→【基本的な考えの背景と社会構成主義については、参考文献(1)と(2)を参照願います。】

・2番目の略称が示しているように、ここで述べている新しいデザイン方法の案は、社会構成主義の考え方・流れを基底としています。

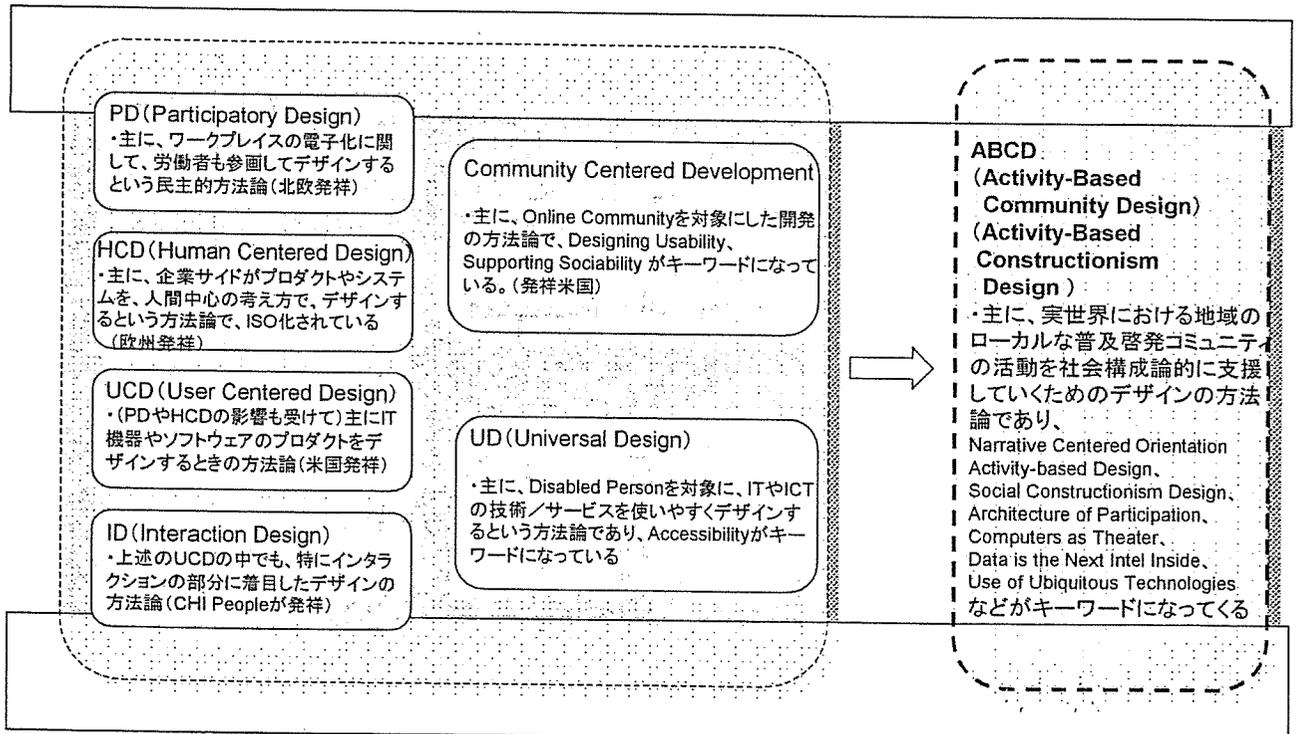
【Social Context】



【Technological Context】

図4.1 新たな開発方法論(デザイン方法論)に向けて(案)

【Social Context】



【Technological Context】

図4.2 各デザイン方法の特質と新たなデザイン方法の基本コンセプト(案)

(3) 普及啓発を支援する社会構成主義デザイン(ABCD)の 概念アーキテクチャ

- ・「地域における新たな普及啓発方法の開発」に向けて、現時点での予備的検討から想定される概念アーキテクチャとしてとりまとめたものを、
図4.3 普及啓発を支援する社会構成主義デザイン(ABCD)の概念アーキテクチャに示します。
- ・ABCD方法では、その概念として、「物語」、「コミュニティ」、「コミュニティ基盤」を大枠としての基本的な構成要素とするアーキテクチャとします。
- ・「(普及啓発)コミュニティ」には、それを構成する「参与者」、「関連者」、「Designer」がおり、様々な「活動」を日々おこなっています。
コミュニティの「物語」は、現状から将来にむけて、Narrative中心の方向付けがなされていき、参与者、関連者、Designerは、その物語を相互参照、自己参照していきます。
これらの緒活動を、コミュニティ基盤が、周知共有、変化共有、経過体験共有、専門知深化などの視点から支援していきます。
- ・これらを総合していくときに、“Narrative Centered Orientation”、“Activity-based Design”、“Social Constructionism Design”、“Architecture of Participation”、“Computers as Theater”、“Data is the Next Intel Inside”、“Use of Ubiquitous Technologies” という緒コンセプトが融合されていきます。

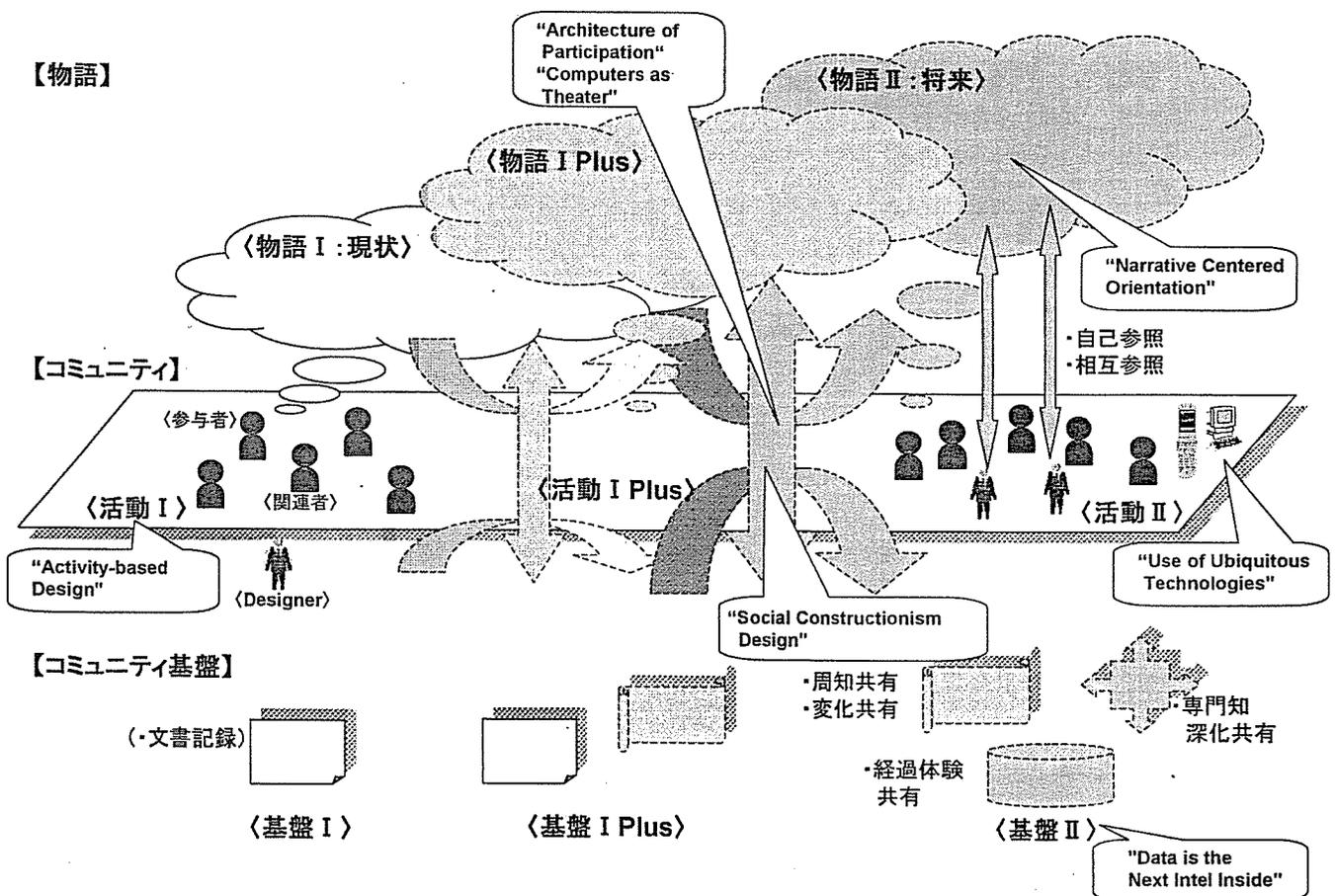


図4.3 普及啓発を支援する社会構成主義デザイン(ABCD)の概念アーキテクチャ

(4) 普及啓発のためのABCD実践システムの構成例

- ・図4.3で示した概念アーキテクチャを、具体的な実践システムとしてインプリメントしていく場合の例を、

図4.4 普及啓発のためのABCD実践システムの構成例
に示します。

- ・“Narrative Centered Orientation” を実践していくためには、例えば、Narrative Based Image Co-authoring などが、
“Activity-based Design” を実践していくためには、例えば、Activity Representation、Contextual Inquiry、Cognitive Image Conceptualization などが、
“Social Constructionism Design” を実践していくためには、例えば、Communitycability (Sociability) Construction Guidelines などが、
“Architecture of Participation” や “Computers as Theater” を実践していくためには、例えば、Computers as Theater Interface などの様々な工夫が必要とされます。
- ・そして、これらの(普及啓発)活動を、コミュニティ基盤が、周知共有、変化共有、経過体験共有、専門知深化などの視点から支援していくためには、ものごとの周知を基本としたWebだけではなく、経過や体験の分かち合いを支援するBlog、専門家などによる情報の信頼性をたかめるSNSなどを、総合的に提供していく必要があると思われます。
- ・すなわち、“Data is the Next Intel Inside” を実践していくためには、例えば、Web、Video-Web、Video-RSS、Blog、Video-Blog、OurCommunityBits、SNS、Video-SNSなどを、Web2.0、Lightweight Software のツール類を利活用しながら、構成していく必要があると思われます。
- ・“Use of Ubiquitous Technologies” を実践していくためには、例えば、Tagged Mobile Uploading、Ubiquitous ICT が必要であると思われます。

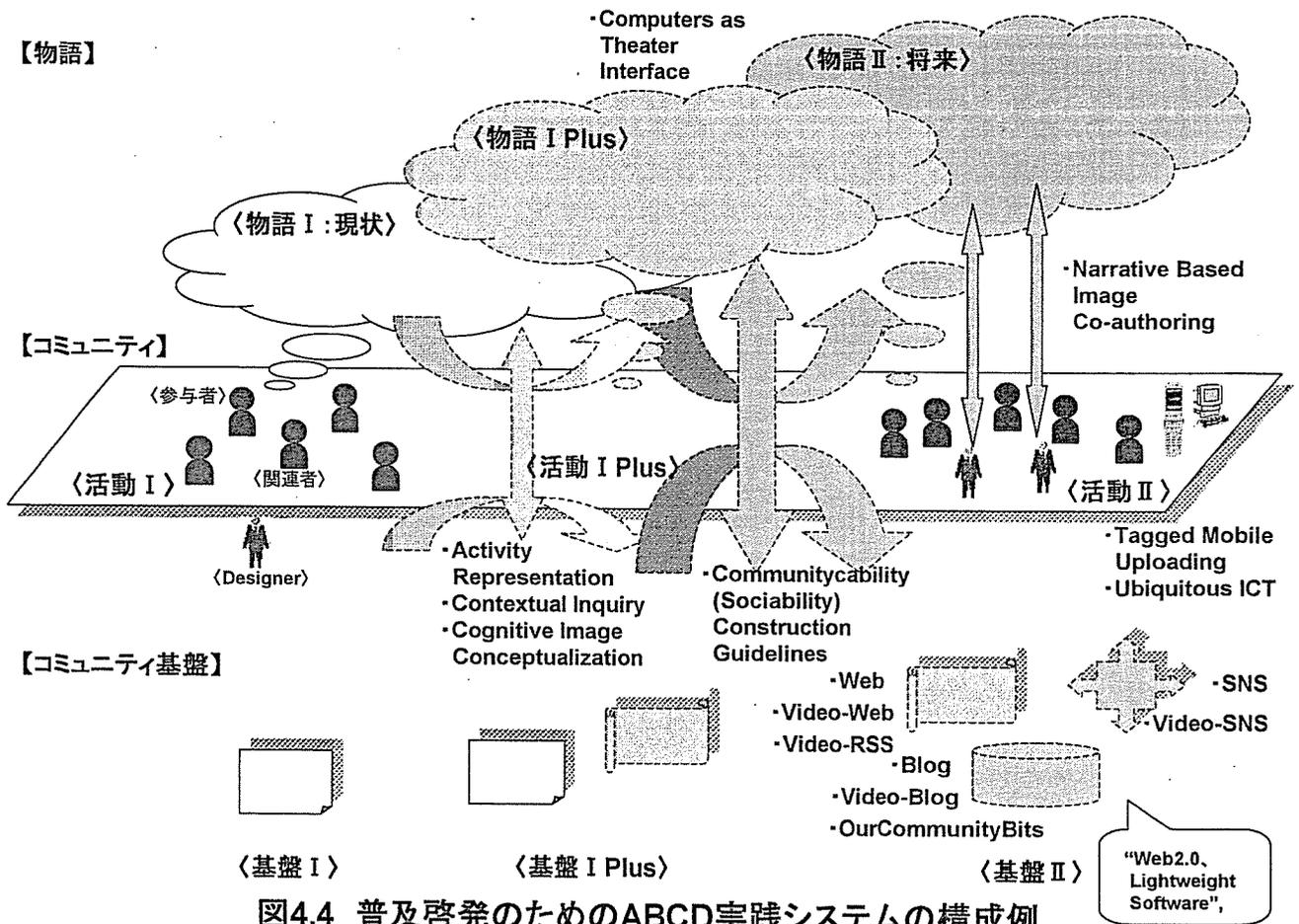


図4.4 普及啓発のためのABCD実践システムの構成例

【参考文献・講演】

- (1) 遠藤隆也:「人(H)と情報(H)とセラピー(T)、そして社会(S)」
SI2004、2004.12.
招待講演.
- (2) 遠藤隆也:「個におけるInterSociety: 社会構成論的視点と自己成長」
InterSociety2005、1005.9.14.
招待講演.
- (3) 遠藤隆也:「生活者中心の情報化社会を目指して」
地域情報化フォーラムin京都(日本経済新聞社)、2005.11.9.
招待パネル.